

万行寺寺報

Mangyoji Jihō

発行
浄土真宗本願寺派 万行寺
住職 山崎信充
〒385-0003
長野県佐久市下平尾461-1
電話 0267-67-2460

2025(令和7)年

仏暦2568年

2月号

(第161号)

実践運動 総合テーマ『そとつながる ホッがつたわる～結ぶ絆から、広がるご縁へ～』



住職 法話

有無の邪見を破すべしと

正信念仏偈に学ぶ
龍樹大士出於世
悉能摧破有無見
南天竺に龍樹大士世に出
でて、ことごとくよく有無
の見を摧破せん。

「現代語訳」
「南インドに龍樹菩薩が
現れて、有無の邪見をす
べて打ち破り、

親鸞さまの著『高僧和讃』
にも、
南天竺に比丘あらん
龍樹菩薩となづくべし

有無の邪見を破すべしと
世尊はかねてときたまふ

とあります。「やがて南イン
ドに龍樹菩薩という名の僧
が現れ、有無の邪見を打ち破
るであろうと、釈尊は説き
示された。」と訳されていま
す。龍樹菩薩は、「有の見」
と「無の見」という人間の迷
いを打ち破られ、「邪見」に
とらわれることのむなしさを
説かれました。

ここで「有の見」とは、た
とえば、死により身体は滅び
ますが、靈魂がいつまでも残
り、人間の不幸に關わりと
いったとらわれによる見方
です。そして「無の見」とは、
「有の見」とは逆に、死によ
って何も無くなり滅びるとい
うむなししい見方です。そうい
った人間の偏り誤った考え
は、仏教に背く邪悪な見方
「邪見」と言われるのです。
とかく仏教では、この物事
の「見方」が説かれることが
多いです。仏さまの教えに
出遇い物事の見方が変わった
という経験があるでしょう。
有無という邪見にとらわれ
てしまうのが人間です。です
から私たちは、法に出遇い見
方を正し、一生をかけて学び
を継続していくことが重要な
のでしよう。

身近な現代社会に目を向け
ると、昔はOKだったりする
「暗黙の了解」が通用しない
ことが増えてきています。コ
ンプライアンスと言われ、企
業では社会の流れに沿ったル
ール決めを作り遵守される
ように変わってきています。
特に性差別の問題は企業自体
を揺り動かす大きな問題に発
展しています。
欲のままに言動をして去つ
ていった政治家や芸能人など
が目立ちますが、少し前は、
空気を讀んで我慢することが
良いとされてきました。この
「我慢」とは、本来は仏教用
語で「うぬぼれ」の心で、「自
分が正しく他人が間違ひ」と
いう我を通す見方のことを指
します。ですから言わずに我
慢していたのではなく、お互
いが「自分が正しい」という我
を通してしまっている姿に氣
づきます。
そういった問題に共通して
世代間のギャップをあげ、学
びの足りなさを指摘する方も
おられます。学びを繰り返し、
自身の「邪見」に氣づき修正
をしていくことが必要なで
す。社会問題の更なる学びに
期待をする意味で、私たちの
宗派の現況は大丈夫でしょ
うか。



浄土真宗 新 仏事のイロハ

五、礼儀と作法

― お寺に親しむために ―

「焼香の作法」

おいしいதாகず一回だけ

焼香しょうこうの作法は、各宗派かくしゅうはいによつて少しずつ異なっているようですが、おおむね、次の二点がポイントになっています。すなわち、一つは、つまんだお香をおしいただくかどうかということ。今一つは、お香をたく回数です。三回のところもありますし、二回のところもあり、一回もあります。

そんなわけで、自分の宗派しゅうはいの作法を知っていれば何でもないことなのに、知らないとな案外、戸惑ったり、ぎこちなくなったりします。

浄土真宗本願寺派じょうどしんしゅうほんがんじはいでは、「お香はおしいただかない」「回数是一回」です。もう少し詳しく作法を述べ

ますと。

① 尊前そんぜん（ご本尊ほんそんの前）の二、三步手前で、軽く頭を下げる。

② 進み寄つて、まず香盒かうこうの蓋を取つてその縁ふちにかけ、お香を一回つまんで、そのまま香炉かうろに入れる。

この場合、お香は額ひたいにおしいただかない。また、お香をつまむ前に合掌がっしょう礼拝らいはいする必要はない。

③ 香盒かうこうの蓋をして、合掌がっしょう礼拝らいはいする。

④ 礼拝が終われば、二、三步後退して軽く頭を下げる。

以上が基本です。覚えておいてください。



合掌・礼拝のしかた



「浄土真宗 新 仏事のイロハ」末本弘然著／本願寺出版社刊より



年忌法要表

1 周忌	2024(令和 6)年	23回忌	2003(平成15)年
3 回忌	2023(令和 5)年	25回忌	2001(平成13)年
7 回忌	2019(令和 1)年	27回忌	1999(平成11)年
13回忌	2013(平成25)年	33回忌	1993(平成 5)年
17回忌	2009(平成21)年	50回忌	1976(昭和51)年

編集後記

「住職法話」では、最後に私たち宗派しゅうはいは大丈夫か？と問いましたが、コロナ感染もきつかけで、以前と比べ研修会も減ってきています。世代交代や組織作りの課題もありますが、復活の期待を込めました。◆「仏事のイロハ」は、前回添付出来なかった「合掌礼拝しょうらいはい」の画像も載せています。